

H30年度 学校法人いわお学園 理容美容専門学校 西日本ヘアメイクカレッジ 学校自己評価及び学校関係者評価表

評価基準 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
I 教育理念 教育目標 人材育成像	1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	社内研修等を通じ、教職員間においては理念や目的・人材像は周知されているが学生・保護者・卒業生等外部への周知が徹底されていない。 アイラッシュやレディースシェーブ等、現場で求められる技術を学ぶ機会を提供することで就職機会の増加につなげている。	個別の学校説明の場等においては、理念や教育目標にも触れ、学生・保護者に伝えることができている様に思うが、幅広く全体に伝えるという点ではホームページやパンフレットでの情報提供に留まり、不十分なところも見受けられる。	学校関係者評価委員会での意見や情報を迅速にカリキュラムに反映させる。 パンフレット、ホームページ以外に保護者向けの冊子等を作成し、情報を提供する。学校紹介DVDに加え、オープンキャンパス時に保護者向け説明会を開催する。 学校の将来像を教育目標に追加していく。
	2 学校における職業教育の特色は何か。	4			
	3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか。	4			
	4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造などが学生・保護者等に周知されているか。	3			
	5 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4			
II 学校運営	1 目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	事業計画策定に当たっては会議を開催し、全員で共有するとともに、月次の全体会議の場で進捗を点検している。 諸規程及び組織整備についての整備・見直しが進んでいない部分もある。 学籍管理システムを導入して2年目、専任の担当者を配備する余裕は無く、迅速には言えないが、順調に進んでいる。	各会議は定期的に開催されており、その役割や会議間の連携の整備も進んでいる。 更に運営の効率化を目指すために、新任の教職員にもある程度の役割を与え、積極的に学校運営に関わる機会を設けたい。	社会保険労務士等にも相談しながら、諸規程及び組織整備の見直し・整備を進めていく。 学籍管理システムの導入を進める中で教員の意見も吸い上げながら、使いやすく、業務の効率化が進む様に取り組んでいく。
	2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3			
	3 人事・給与に関する規定等は整備されているか。	4			
	4 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3			
	5 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	2			
	6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3			
	7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3			

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
Ⅲ 教育活動	1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教育課程編成委員会での討議を経て、選択必修科目について平成28年度に全面的に見直しを行った。 平成30年4月入学生からは、法改正に伴うカリキュラムの変更もあったが、今後も現場のニーズに合ったカリキュラムによる即戦力の育成を心がけながら、国家試験合格率、生徒の意見等にも目を配りながらカリキュラムの見直しを図っていく。	関係企業との連携を深め、学生や教員のの資質向上を目指しているところではあるが、企業間格差も感じられ、まだまだ不十分と感じる。 インターンシップ実習授業に際しては、事前の説明会を実施する等、現場責任者の方に目的や具体的な指導法をより明確に伝える必要性を感じた。 現場を離れて長い教員が現状の顧客ニーズ・技術に対応できる研修等も同様で、お手伝いに終わるのではなく、意義のある研修として位置づけられる様、整備を進める。	インターンシップ実習授業については、参加者・受入先企業の両面において目的や指導・評価等、共通の認識を持って取り組める様に整備を進める。 学校と隣接した美容所との連携により、学生のみならず、教職員が現場の感覚や顧客ニーズへの対応力を養う。 学生の就職へのニーズの変化も鑑み、アイラッシュサロン・ブライダルサロン・エステサロン等の新しい連携企業を開拓することが課題であるが、特にエステ関係については、他校と違い理容科生がエステを受講し、業界への就職を志望する者が増加することが予想されるため、早期に就職先の新規開拓を目的とした訪問活動を実施する。
	2 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3			
	3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	3			
	4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	3			
	5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	3			
	6 関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	3			
	7 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3			
	8 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3			
	9 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4			
	10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3			
	11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4			
	12 関連分野における業界等との連携においてすぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4			
	13 関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか。	3			
	14 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4			

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
IV 学習成果	1 就職率の向上が図られているか。	4	個別面談を含む就職指導、就職ガイダンスの開催等のサポートで、高い就職率をキープできている。 アイリスト、ネイリスト希望者からの相談に際し、社会保険や福利厚生が充実している等、学校として紹介できる先がまだまだ少なく、早期内定を目指す上で課題となっている。	インターンシップ授業やサロン体験、就職内定後の研修等が逆に学生の就職意欲を減退させる場合もあるので、実施にあたっては、サロンとの連携を密にし、内容について十分に検討を心がける。	全クラス担任・副担任の2名体制を採り、複数の目で生徒の細かい変化にも気がつく様に環境を整え、折に触れ、面談や保護者との連携を取ることで、退学率の低減を図る。 専任教員の結婚退職が見込まれ、今後は兼任教員(関連サロンに就職した卒業生)の活用を検討していくが、早期戦力化の仕組みづくりを早急に検討する。
	2 資格取得率の向上が図られているか。	4			
	3 退学率の低減が図られているか。	3			
	4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3			
	5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。	3			
V 学生支援	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	ホームルームの担当教員を日毎に入れ替える等、複数の教員が接することで、学生の変化に気づける様、また教員間の格差を無くす様、工夫している。 また、タイムリーなタイミングで保護者と密に連携できる様、教員間での連携も強化する。	表だって表現されない学生の心の悩みをいかにつかみ、早期に解決するかが課題。学生が気軽に相談できる仕組みを構築していく。	心理カウンセラーの導入も含め、学生の心理的相談に乗れる仕組みの強化を図る。 直接相談しにくい悩みもあろうかと思うので、メールの開設等による相談窓口も検討を進める。 新規導入の学籍管理システムを活用し、卒業生情報の整理に取り組む。
	2 学生相談に関する体制は整備されているか。	3			
	3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4			
	4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3			
	5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	2			
	6 学生の生活環境への支援は行われているか。	3			
	7 保護者と適切に連携しているか。	4			
	8 卒業生への支援体制はあるか。	3			
	9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3			
	10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	3			

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
VI 教育環境	1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	あべの本校舎も開校10年を経過し、施設や設備に傷みの出ているところがある。	テロの危険が憂慮されるので、情報収集に努め、海外研修の挙行には十二分に注意するとともに、参加者の保護者の理解・同意を必ず得て行う。	設備全般のチェックの機会を設け、優先順位を組みながら、予算組みし、営繕を実施していく。
	2 学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3	経済的事情もあろうが、近年の海外研修希望者は10名程度tpテロの影響は否めない。		
	3 防災に対する体制は整備されているか。	3			
VII 学生の受入れ募集	1 学生募集活動は、適正に行われているか。	4	AO入試等における専各連からの指導を遵守し、適正な学生募集活動を行っている。	ネイル、アイラッシュ等への就職希望への生徒には、授業内容を具体的に説明する等、入学後のトラブルを防ぐための説明を徹底する。	周囲の状況を見極めながら、授業料・教材費等の見直しを行っていく。
	2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	ネイル、アイラッシュ等志望の生徒の中には資格取得のための授業に入学前に抱いていたイメージとの違いを感じる者もいる。		
	3 学納金は妥当なものとなっているか。	4			
VIII 財務	1 長中期的な学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3	財務については会計士の指導のもと専任の担当者により、適切に処理されていると思われる。	適切・正確な処理を心がける。	理事会・評議委員会において予算執行を精査し、健全な財務体制を維持する。
	2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3			
	3 財務について会計監査が適正に行われているか。	4			
	4 財務情報公開の体制準備はできているか。	3			
IX 法令等の遵守	1 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4	個人情報保護の管理を強化する。 ブログ、フェイスブック、インスタグラム等への学生、高校生の指名・写真掲載において事前に許可を取る等、細心の注意を払う様徹底する。	オープンキャンパスやイベントの際の外部からの参加者に対する写真掲載には十分注意を払っていると感じるが、在校生に対してはまだ弱く感じる。	コンプライアンスの研修を行い、より周知徹底する。 学籍管理システムについては、管理権限を明確に定めて運用している。
	2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	3			
	3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3			
	4 自己評価結果を公開しているか。	3			
X 社会貢献 地域貢献	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	地域への施設の貸出、催しへの参加等、地域への貢献を行っている。	地域社会における学校の役割を認識し、積極的にボランティア活動に参加する。	公開講座・教育訓練は関連校の西日本へアメイクカレッジ天王寺MiO校で行っているため講師や施設の提供を通じ、強力を図る。 休日時のイベントについて、生徒の引率体制を組むのが困難で今後の課題となる。
	2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3			
	3 地域に関する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	3			